

職員公舎給水設備等の凍結に備えて

気温が 5 度を下回ると職員公舎の住戸内給水設備では、凍結が発生する恐れがあります。特にバランス型風呂釜は凍結し破損しやすいため注意が必要です。

ここでは、凍結により給水設備に支障が生じないように、職員公舎の凍結対策の一例について説明します。なお、住戸毎にその方法は、多少異なりますので、取扱い説明に沿って行ってください。

また、凍結による設備の修繕対応は入居者の負担となるため、凍結が危惧される場合には、各自が水抜きの手続きをお願いします。

□住戸内給水の水抜き

- ①階段室のパイプシャフト内にある水道止水栓を閉める (写真①) 水道止水栓は、最後までしっかり閉める。
 - ②同パイプシャフト内にある水抜き水栓を開け、住戸内に残った水を捨水する。(写真②)
 - ③この時点で水道メーター内のコマが、回転していない (止水している) ことを必ず確認する。(写真③)
 - ④住戸内全ての蛇口水栓は、開栓し残水を全て流し出した後に閉栓する。(蛇口の閉栓は必ず行ってください。)
 - ⑤開栓は③→②「水抜き水栓を閉める」→①「水道止水栓を開ける」の手順で行う。
 - ⑥水道止水栓開栓後も必ず水道メーター内のコマが、回転しない (捨水していない) ことを必ず確認する。
- ※コマは、通常、住戸内で水を使用していない場合は回転しません。通水後しばらくしても回り続ける場合は、水抜き栓が十分に閉まっておらず捨水状態となっていることが疑われます。



□バランス型風呂釜の水抜き

バランス型風呂釜の水抜きは、住戸内給水の水抜きとは別に行う必要があります。

①止水後、給湯切り替えレバーをシャワーからカランに切り替える。(写真④)

②①のみでも一定の効果は期待できるが、より効果的な方法としては、風呂釜に記載された水抜き手順に沿って水抜きを行う。(写真⑤)

※機種により手順が異なる可能性があるため、本体に記載の型式を確認しインターネット等から手順書入手し実施してください。

